

## ポーチュラカ ハッピーアワー・シリーズ/テキーラ・シリーズ

学名: *P. grandiflora* (Moss Rose)  
種子粒数の目安: 9,300-10,000 粒/グラム

### プラグ生産ステージ

#### 培地

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用する。培地の pH は 5.8 から 6.2、また EC は 0.75mmhos/cm(2:1)以下。ポーチュラカは塩類に、とくに発芽の段階ではアンモニアにひじょうに敏感なので注意する

#### 播種

ハッピーアワーもテキーラもそれぞれマルチペレット、普通種子(raw seed)の選択が可能。マルチペレットからは、通常 2 から 4 つの発芽が確認されます。トレイサイズは 288 から 406 穴が適当。覆土は不要

#### 日長時間との関係

ポーチュラカは短日に影響を受けやすい植物で、育苗の段階から注意する必要があります。日長時間が限界を下回ると、株がロゼット(花芽をつけずに生長を中断)に入ってしまう。一度ロゼットに入ると、長日条件に戻しても回復は困難です

株をロゼットさせないためには、ハッピーアワーの場合は自然の日長時間で 10 時間半以上の条件で、またテキーラでは 10 時間 15 分以上の条件で播種します。ハッピーアワーの条件はマルガリータよりも 30 分短く、日数的には約 2 週間早く播種することが可能です。これらの条件のもとでの播種であれば、生産のそれぞれの段階において日長時間による影響を受けることはありません

ステージ 1 - 発芽には 2、3 日要する

**地温:** 22 から 26°C

**光条件:** 必ず必要ということではないが、あつた方が管理上は有利である

**水分:** ステージ1では、最適な発芽条件を整えるため水分レベルをやや湿潤(level 4)に維持

**湿度:** 子葉が発生するまでは相対湿度を 95%に維持

ステージ 2

**地温:** 22 から 23°C

**光条件:** 26,900 ルクス(2,500 f.c.)まで可能

**水分:** 水分レベルを中位(level 3)に下げ始める。水やりの合間には培地を乾くようにして、根を強化する

**肥料:** レート 1(100ppm(N)以下、EC が 0.7mmhos/cm)で、リン酸分の低い硝酸態の肥料を与える。アンモニアの値を 10ppm 以下に抑える

ステージ 3

**地温:** 20 から 23°C

**光条件:** 26,900 ルクス(2,500 f.c.)まで可能

**水分:** ステージ 2 よりもさらにドライな状態に移し、次の水やりまでに培地の表面がライトブラウンになるような、level 2(やや乾燥)で管理する。湿潤と乾燥、つまり level 4 と 2 を循環的に繰り返すようにする。ポーチュラカは、温かく光が強く、また乾燥した条件を好みます。しっかりした根が形成されるよう、この条件を整えるようにします。かん水は早いうちに行い、夕方までに葉が乾くような管理を続けましょう。リゾクトニアによる立枯れが発生しますが、これは概して過湿によって引き起こされるので注意しましょう

**肥料:** 肥料の濃度をレート 2(100-175ppm (N))に上げる。EC は 0.7 から 1.2mmhos/cm(1:2)を維持

**矮化剤:** 矮化剤は不要

ステージ4

**温度:** 18 から 19°C

**光条件:** 温度条件が適当であれば 53,800 ルクス(5,000 f.c.)まで上げて可

**水分:** 上記ステージ 3 と同じ

**肥料:** 上記ステージ 3 と同じ

### 鉢上げから出荷まで

#### 用土

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.5 から 6.2、初期の EC 値は中庸

#### 温度

**昼間温度:** 20-25°C

**夜間温度:** 18-19°C

※温度が低いと花芽がつかないか、あるいは開花しないので注意しましょう

## 照度

温度条件が適正な範囲内で維持されていればできるだけ高くする。照度が低いと花芽が開かないことがあります

## 日長時間との関係

【ハッピーアワー】 苗を移植する場合は、日長時間が 10 時間半を下回らない条件で行います。短いことが予想されるときは、電照などによる 12 から 13 時間に達するよう明期延長しましょう。プラグ苗の育苗については、「プラグ生産ステージ」の項目に記載されているように、必ず適正な日長時間による生産を行いましょう

【テキーラ】 苗を移植する場合は、日長時間が 10 時間 15 分を下回らない条件で行います。短いことが予想されるときは、電照などによる 12 から 13 時間に達するよう明期延長しましょう。プラグ苗の育苗については、「プラグ生産ステージ」の項目に記載されているように、必ず適正な日長時間による生産を行いましょう

## かん水

過湿は避けましょう。次のかん水までの間に完全に培地が乾くような状態にします。根が育ってコンテナの内壁に達した後は、いくぶん少なめのかん水を続けます

## 肥料

かん水とは交互に 15-0-15 の肥料を 150 から 200ppm(N) で与える。20-10-20 の肥料による代用も可能

## PGR(矮化剤)

矮化剤は基本的には不要です。水やりの合間に土をしっかりと乾かすことで、丈の制御は可能です。肥料を、とくにリンとアンモニア態窒素を控えることで丈を制御することも可能

## 平均的な生産期間

播種から移植まで(400 穴前後のトレイ):

4 から 5 週(288 穴を用いる場合はさらに 1 週長くなる)

ポーチュラカは低温と日照不足にとっても敏感な植物です。そのような条件の下では、下記に示した期間よりも長くなるのが予想されます

コンテナサイズ	株本数/ ポット・コンテナ	出荷適期までの 週数
606 フラット*	36	5
10cm ポット	1	5-6

\*: 1 辺が約 5cm の大き目のプラグトレイのような形状

## 病例等

害虫: スリップス、ハダニ等に注意

病気: ピシウム、リゾクトニア等に注意

## 植え付けする際のポイント

- 定植は日あたりのよい場所に、降霜の時期を過ぎた後に行う
- 定植時の株間は 25 から 30cm。水はけのよい土に植えつける
- ポーチュラカは性質上、夜間は花が閉じる
- テキーラは、比較的低温や湿気のある土地の植栽でも耐性のあるシリーズです

## 注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてご利用ください。生産された植物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに則った正しい使用方法とるようにしましょう

EC 値について: EC(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、条件によっては適合し得ない場合もあります。